

資料2

平成29年度

取組み実績・評価

鶴見区役所

防災・防犯部会

- 所管する経営課題

経営課題4 安全なまちづくり

経営課題4

安全なまちづくり



4-1 街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり

地域・関係機関と連携した防犯対策事業

計画

- 防犯カメラの設置
- 防犯プレートの設置
- 防犯に関するバナーの設置
- 防犯推進委員を中心に、各地域団体・関係機関が連携した区内一斉防犯活動
- 区役所・警察署・各地域防犯組織（青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員等）による合同連絡会
- 自転車の2重ロックを推進するため、毎月26日を「26（ツーロック）の日」として啓発に取り組むとともに、鍵の取付けキャンペーンを実施

目標

区で実施している防犯事業を知っていると回答した区民の割合75%以上 ⇒ 87.0%
街頭犯罪件数 前年比△5%（自転車盗 前年比△10%） ⇒ +8%（+0.1%）

実績・評価

- 防犯カメラの設置 30台
- 防犯プレートの設置 50枚
- 防犯に関するバナーの設置 7枚
 - 街頭犯罪抑止に向けて区政会議や地域からの意見等を踏まえた防犯環境整備を進めることができた。
 - 引き続き取り組んでいくが、H25年度以降に区で設置した防犯カメラについて耐用年数等により今後、取り換えを行っていく必要がある。
- 防犯推進委員を中心に、各地域団体・関係機関が連携した区内一斉防犯活動
 - 各地域の青色防犯パトロール隊など地域各種団体と連携し、区が一体となり活動しているが、参加者数の減や固定化の課題がある。引き続き区民のより一層の防犯意識向上や犯罪抑止の環境づくりを進めていく。

実績・評価

- 区役所・警察署・各地域防犯組織による合同連絡会の実施
→地域・関係機関が一体となり、安全なまちづくりへの取組みとなった。
- 26(ツーロック)の日、鍵の取付けキャンペーンの実施
- ひったくり防止カバー取付キャンペーンの実施
→自転車盗やひったくり事案の減少に向けて、引き続き取り組んでいくが、区が実施している防犯事業の認知度は高いが、個人の防犯に対する意識や行動につながっていないという課題がある。



防犯カメラ
設置数:30台



防犯パナー
12月15日設置
設置数:7枚



区内一斉防犯活動
年12回開催
参加者:延べ2,160人



**ひったくり防止
キャンペーン**
年12回開催
取付数:1,200個

30年度の 取組み

- ・【継続】防犯カメラの設置 24台
- ・【継続】防犯プレートの設置 50枚
- ・【継続】防犯推進委員を中心に、各地域団体等が連携した区内一斉防犯活動 12回
- ・【継続】区役所・警察署・各地域防犯組織による合同連絡会の実施 1回
- ・【継続】自転車の2重ロックを推進するための鍵の取付けキャンペーン 12回
- ・【継続】ひったくり防止キャンペーン 12回
- ・【継続】広報媒体を活用した防犯啓発

31年度の 方向性

地域・関係機関と連携した交通安全対策事業

計画

交通事故防止や自転車マナーの向上をめざし、さまざまな年齢層に対して啓発活動等を行う。

目標

交通安全に関する知識が高まったと感じる区民の割合60%以上 ⇒ 85.7%

実績・評価

- 子育て層への交通安全教室 12地域で各1回実施
 - 各地域の「子育てサロン」で実施し、参加した保護者は、「今後の交通安全に役立つ」という意見が多く、実施についてもつるりっぷに出演してもらうなど工夫を行っている
- 高齢者への交通安全研修会 1回実施
 - 研修会の日程等は老人クラブ等で周知したが、参加者が少なかったため、広報紙やホームページなど様々な媒体を使って広く周知を行う必要がある
- 園児への交通安全教室 3回実施
 - 園児にわかりやすく交通安全に関するルールを教えることができた
- 警察署、学生と協働した自転車マナーアップキャンペーン 4回実施
 - 鶴見警察や鶴見商業高等学校、汎愛高等学校と連携し、主要交差点においてポケットティッシュの配布を行いながら啓発活動に取り組んだ。

実績・評価

- スケアードストレート学習（スタントマンを活用した交通安全教室）

1回実施（1回雨天のため中止）

→ 目の前で交通事故を模擬再現することで、交通ルールを守って交通事故に遭わない、起こさないことへの意識が高まる効果があった

また、当日の様子を動画配信し、広く区民に交通安全の啓発につながった

- 転入者への駐輪場マップの配布

- 放置自転車啓発活動 放出駅、今福鶴見駅、横堤駅の各駅前でも月1回開催

→ 地域と警察、建設局、区役所が協働でキャンペーンを行うことにより、放置自転車対策に有効であり、引き続き取り組んでいく



子育て層への
交通安全教室開催

12地域



スケアードストレート学習

11月19日開催

参加者300人



駐輪場マップ



放置自転車啓発活動

4月~3月開催

30年度の 取組み

交通事故防止や自転車マナーの向上をめざし、さまざまな啓発活動等を行う。

- ・【継続】子育て層への交通安全教室 12回
- ・【継続】高齢者への交通安全研修会 1回
- ・【継続】園児への交通安全教室 3回
- ・【継続】警察署、区内の高校生と協働した自転車マナーアップキャンペーン 4回
- ・【継続】スケアードストレート学習(スタントマンを活用した交通安全教室)の実施と自転車マナーアップキャンペーン 1回
- ・【継続】地域・関係機関と協働した放置自転車啓発活動 36回

31年度の 方向性

経営課題4 安全なまちづくり



4-2 災害に強いまちづくり

区民の安全・安心を担う総合的な防災力の強化

計画

- 地域の自主防災力強化のため、住民・各種団体、学校と連携した訓練等を行う

目標

防災等に対する理解が高まったと感じる区民の割合80%以上 ⇒ 96.8%

実績・評価

- 避難所開設訓練等の支援 12地域で開催
 - 災害時避難所となる小学校を使用した地域の防災訓練の支援を行った。
30年度は、災害時における地域の組織づくりや、避難所開設運営訓練の実施に向けた支援の強化を行う。
- 鶴見区安全・安心フェスタ 1回
 - 防災に関する参加体験型のイベントとして実施し、あわせて自転車シミュレーター(運転模擬体験)とタッチくん(交通安全知識クイズ)を行い交通安全啓発を行った。30年度は広報紙やホームページ、ツイッターでの情報発信の他、スーパーや家電量販店などへのポスター掲示依頼を行い広く周知する。
- 防災講演会(安全・安心フェスタと併催)
 - 防災士の資格を持った著名人による防災講演会を開催したが、事前の広報や実施手法に問題点を残す結果となった。

実績・評価

- つるみんピック 1回
 - 日ごろ培った防災技術力を各地域対抗の競技会方式にすることで、地域防災リーダーの防災力への意識向上を図るとともに地域の結束力を高める効果があった
- 小・中学生、高校生を対象とした防災学習会 7回
 - 29年度は、初めて鶴見商業高校で、1年生を対象に災害時に高校生としてできる事についての学習会を開催した
 - 30年度も、2年生を対象に、継続した取り組みを行う
- 出前講座 5回(地域3回、その他2回)
 - 様々な機会に防災講演を行うことで、防災の啓発を行い意識の向上を図ることができたが、今後は出前講座の回数を増やし、更に多くの区民に対し啓発を行う



地域の防災訓練
12地域で開催



つるみんピック
3月18日開催
参加者482人



安全・安心フェスタ
12月10日開催
参加者500人



学校での防災学習
7回実施

30年度の 取組み

地域の自主防災力強化のために、地区防災計画策定や、より実践的な訓練等を行うための支援を行う。

- ・【継続】避難所開設運営訓練 12地域
- ・【継続】安全・安心フェスタ 1回
- ・【継続】つるみんピック 1回
- ・【継続】小学生、中学生や高校生を対象とした防災学習会の開催
- ・【継続】広報紙やツイッターなどによる広報の実施

31年度の 方向性

【経営課題全体としての評価総括(自己評価)】

- 災害に強いまちづくりに向け、地域ごとに支援内容を工夫し取り組むとともに、新たに高校生に対して防災学習を行い、災害時ボランティア活動の意識付け、地域防災力向上につなげることができた。
- 防犯カメラの設置や自転車への鍵の取り付けキャンペーンなどの実施により、街頭犯罪件数、自転車盗件数の抑制に努めたが、昨年と比べ増加となった。今後は個人個人の防犯意識向上につなげるための取組みを行っていく必要がある。
- 交通安全対策事業では、スクアードストレート方式による学習会の実施に加え、ユーチューブなどの広報媒体を活用し、会場まで足を運べなかった方たちにも、交通マナーの大切さについて周知を行うことにより、交通安全に関する知識の向上につなげることができた。